

## 第2期第1回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2014年4月21日（月）10:00～12:30

〔場 所〕町田市役所 会議室5-3

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川清（会長）、小川久江（副会長）、岩本陽児、押村宙枝、佐合昭浩、辰巳厚子、  
富川尚子、西原要四郎、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子  
以上 12名

事務局：坂本教育長、田中生涯学習部長、稲田センター長、外川担当課長、  
松田事業係長、堀江管理係長、齋藤担当係長、小林主任、中村主事（記録）

〔欠席者〕なし

〔傍聴人〕0人

〔資 料〕・第1回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2013年度町田市生涯学習センターの事業報告について
- ・2014年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート
- ・2014年度町田市障がい者青年学級の開級式についてのお願ひ

### ○ 生涯学習センター運営協議会委員 委嘱伝達式

→ 坂本教育長から委員12名に委嘱状を授与。

（教育長挨拶）

町田市教育委員会では昨年度、町田市教育プランを改定した。これに併せて、生涯学習の分野では初めてのアクションプランとなる、町田市生涯学習推進計画を策定した。この計画の策定にあたっては、第1期生涯学習センター運営協議会の皆様をはじめ、多くの市民の皆様にご協力をいただき、感謝申し上げます。今年度はこの計画を実行に移していく年であり、教育長として、計画の推進に尽力していく。事務局の方でも努力を尽くすが、より充実した各事業の展開が出来るように、ご尽力、ご支援を皆様にお願ひしたいと思っている。

### ○ 開会の挨拶、配付資料の確認

### ○ 委員及び職員の自己紹介

## <協議事項>

### 1. 町田市生涯学習センター運営協議会会長及び副会長の選出について

#### （1）会長の選出について

事務局：町田市生涯学習センター運営協議会設置要綱第5の会長等について、協議会の会長及び副会長は委員の互選により定める。

→推薦により、石川委員を会長に選任する。

#### （2）副会長の選出について

→推薦により、小川委員を副会長に選任する。

### 2. 各種委員の選出について

#### （1）生涯学習審議会委員について

事務局：生涯学習審議会は、教育委員会の諮問に応じて、調査・審議し、答申する附属機関である。

生涯学習の振興と社会教育に関する基本方針の立案、施策、事業を評価する。任期は2年で、生涯学習センター運営協議会から1名選出する。

→岩本委員を生涯学習審議会委員に選任する。

#### （2）東京都公民館連絡協議会について

事務局：東京都公民館連絡協議会は、東京都下26市3町1村のうち12市が加盟している公民館の連絡協議会である。この公民館運営審議会の委員部会に1名を選出する。  
→柳沼委員を委員部会委員に選任する。

### 3 2014年度生涯学習センター事業計画について

事務局：2009年度に策定した教育プランを2013年度に改定した。それに基づき、同年度に生涯学習推進計画を策定した。2014年度以降はこの推進計画に基づいた事業を行っていく。教育プランが方針的な計画であるのに対して、生涯学習推進計画はアクションプランという位置づけになっている。2014年度は学習機会の提供、自主的な学習の支援、学習環境の整備という3つの基本施策として、それぞれの個別施策に取り組んでいく。学習機会の提供については学習情報の収集及び発信、生涯学習のきっかけづくり、社会的課題の対応、地域の担い手づくり等を目的に、市民の方々に講座・講演会等の学習活動の機会を提供していく。そのなかで重点的な取り組みが、生涯学習情報のポータルサイトの構築であり、2015年度に開設したいと考えている。現存の町田市のホームページとの整合性ととも、他の部署でもポータルサイトを立ち上げたいという要望があるため、他部署との連携をとりながら構築を目指していきたい。また、家庭教育支援事業の充実について、前年度から、国・都の家庭教育基盤形成事業補助金制度を活用しながら実施している。今後教育委員会のなかでも家庭教育については、学校教育とともに充実させていく必要がある。

2番目の自主的な学習の支援については、2012年3月から実施している生涯学習ボランティアバンクの充実を図っていく。前年度はボランティアの方に企画をしていただき、7月・3月にボランティアバンク1日体験講座を開いた。ボランティアバンクというのは、市民の方々が学んだことを活かす場として講師となり、地域の団体・グループに対して講座や講演会を行っていただくというものである。前年度に引き続き、今年度も1日体験講座や、ボランティアの方々のスキルアップのためのスキルアップ講座を行う予定である。また、講師派遣制度の改善として、市内の10名以上の団体が、一般市民も招いて行う講座や講演会に対する講師の謝礼を年間1回2万円まで補助するという制度を改善し、推進していく。

3番目の学習環境の整備として、事業評価シートについて、委員の皆様のご意見をいただきながら、事業評価のあり方、評価方法等について改善していく。また、施設の長期修繕計画を策定する。屋上防水や、それに付随する修繕を現在進めている。

(意見・質問)

委員：基本目標と基本施策の3つが繋がらない。ライフサイクルで生涯学習を捉えていくという発想があるが、もっと立体的に捉えていかないと関連付けがされないのではないかと。

事務局：生涯学習は市民の方が主体で行うものであり、まだ生涯学習活動をされていない方、すでに様々な活動をされている方等、それぞれの学びのプロセスに応じて行政でどのような支援ができるかという視点で決めたものである。学習機会の提供については、まだ学習活動をあまりされていない方に対して、行政が主体的にアプローチをしていくということを中心に考えた。具体的には講座を開いたり、講演会やイベントを市が主催して行う、あるいは市が主催しているもの以外の様々な学習の機会を発信していく。続いて自主的な学習の支援については、すでにある程度学習活動をされている方に対して、学習相談の実施、学習に必要な資料の提供、学習した成果を活かす場の提供等を行っていくものである。3つめの学習環境の整備については市民の方が学習しやすい環境をつくるために、施設の適切な維持管理や、予算配分を適切に管理するための事業評価等、行政がどのような整備をしていくかで構成している。

このように市民それぞれの学習のステージによって計画の3本柱を構成した。あらゆる世代の方がそれぞれ必要な学習があるかと思うので、事業を実際に進めていくなかで常に意識していくことを考えている。

### 4 社会教育関係事業講師派遣制度について

事務局：2014年度社会教育関係事業講師派遣制度について、概要については前年度とほぼ同じだが、対象となる団体について、今年度は会員が10名以上、その半数以上が町田市民の団体を

対象にしたものとなっている。この講師派遣事業は、市民の皆様に社会教育事業を広めていただくために、団体が企画した講演会に講師を派遣し、講師に対して謝礼を2万円まで援助するという制度である。前年度は社会教育関係団体に対する補助金があったが、補助金事業見直しにより今年度は廃止になった。その分この制度の枠を広げた。2万円を上限として昨年度は50団体までを対象としていたが、今年度は60団体までを対象としている。

(意見・質問)

会 長：実績としてはどのようなになっているか。

事務局：昨年度は50団体を対象としていたが、実際の応募は49件あったがキャンセルが3件あり、46件の実施となった。

## 5 2014年度生涯学習センター事業の計画について

### (1) 第3回生涯学習センターまつりについて

事務局：10月24～26日の3日間、生涯学習センターを利用している方の学習成果の発表の場として行う。例年、発表と展示で60団体余りの方々にご参加いただいている。5月13日から企画・運営委員会を開催する。

### (2) 雑学大学・生涯学習センター共催講座「伊賀健一氏講演会」

事務局：市民団体の呼びかけに応じて、広く市民の方にも情報を提供していくという共催事業である。今回は、昨年度フランクリン賞を受賞された伊賀健一氏の講演会を実施する。町田フィルハーモニー交響楽団のコントラバス奏者でもあるので、講演に加え、演奏もしていただく。

### (3) 乳幼児の保護者のための講座「心をつなぐ ふれ愛子育て」

事務局：生涯学習センターでは毎年子育て中の保護者を対象にした講座で、乳幼児から中学生まで、それぞれの連続講座を開催している。今回の企画については、乳幼児の保護者を対象にしたものである。昨年に引き続き、好評だった救命救急やわらべうたを行うとともに、知識を提供するだけでなく、母親同士の交流を生んで、仲間作りに繋げるため、ワークショップを多く取り入れて実施していきたいと考えている。

### (4) 幼い子どもと暮らす親と子の交流ひろば「くるくるロケット」

事務局：幼い子どもと暮らす親と子の交流ひろば「きしゃポップ」を生涯学習センターで行っている。きしゃポップは0歳児、1歳児をお持ちの方が親子あそびや保護者同士の交流等、気軽に立ち寄って悩みを相談したり、学習をしていただく場として月4回開催している。そのなかで保護者の方から、子どもが2歳になった途端に行く場所がなくなってしまうという声が非常に多くあったため、2歳児以上の学びの場として今回のくるくるロケットを企画した。

今年度の後期には継続的に実施していきたいと考えているが、今回で2回目となるこの企画は、後期にむけて試行的に行うものである。講師については市内で活動している市民グループ「親子の遊び場つばさ」に依頼しており、保育室の定員の関係もあり、少人数に対しての事業になるため、コスト面も意識しながら、地域の子育て支援者と保護者との交流の場になればと考えている。

### (5) コンサート「タンゴトリオによる情熱のアルゼンチンタンゴ」

事務局：生涯学習センターでは年6回のコンサート事業をおこなっている。これまではクラシックが多くを占めていたが、今回はクラシック以外の音楽も知ってもらうために行うものである。

(意見・質問)

委 員：申し込み方法にイベントダイヤルとあるが、どのようなものなのか。

事務局：町田市が行うイベント等を、総合窓口としてオペレーターが一括して申し込みを受け付けるものである。

委 員：くるくるロケットについて、兄弟に幼稚園や小学生の子どもがいる場合は一緒に参加でき

るのか。

事務局：今回は参加できないが、今後は10月以降から毎月開催を考えており、参加者のニーズにあわせて考えていきたい。

委員：両親が仕事をしている家庭もあり、兄弟で参加させたいという希望はあると思う。可能であれば実施してほしい。

事務局：もう少し年代を幅広く取る予定ではあったが、定員の関係もあり、ある程度対象を絞った企画となった。今後の運営については状況を見ながら検討させていただきたい。

委員：生涯学習センターまつりの企画・運営委員について、昨年度はどのくらいの人数と年代の方が参加されていたのか。

事務局：昨年度は60代から70代の、7名の方にやっていただいた。

委員：若者がいないというのは今後の課題ではないか。他の事業についても、若者対策が弱いように感じる。

事務局：若者向けの事業はいくつか実施しているものの、計画の中でも重点課題として取り上げているので、今後も検討していきたい。

## 6 事業評価について

### (1) ボランティアバンク1日体験講座

事務局：生涯学習ボランティアバンクは、様々な知識や技能・経験等を地域の中で活かしたいと考えている方と、学習活動をしていくなかで知識や技能を必要としている方の橋渡しをするという制度である。この制度を広く知っていただくためにボランティアの方々が講師となって1日体験講座を実施する。昨年度は2回実施し、今回の評価については3月に実施したものについてである。2日間で15講座を実施し、受講者は184名であった。参加者のアンケートでは非常に高い評価をいただいた。また、本講座を通じて1つのサークルが立ち上がった。こうした点でもボランティアの活動を通じて学習の輪が広がり、良い成果があったと考える。今後の改善点としては、ボランティアバンクという制度を広く普及させ、様々な方に利用していただきたいという目的で企画した事業であるが、なかなか直接の利用に結びつかないところがある。このイベントと同時に生涯学習センターの窓口前に展示スペースを設け、登録者の活動の様子を展示し、制度の周知を図っている。今後更に周知していくとともに、具体的な利用の場に結びつけるよう工夫を行っていかねばならないと考えている。

### (意見・質問)

委員：応募者でいうとかなり多くの方が参加されたのか。

事務局：今回の参加で初めて生涯学習センターを利用する方が多かった。学習のきっかけの場としては非常に有効であったと考える。

委員：現在ボランティアバンクに登録されている団体の数はどれくらいか。また、今回の15講座はどのような基準で選定したのか。

事務局：1つの団体でも複数の分野で登録できるため、重複している場合もあるが、現在75件の登録がある。1日体験講座の参加者の選定にあたっては、登録者全てに案内をし、参加を募った。

委員：希望者全員が講座をもてたのか。

事務局：希望者が多数の場合はお断りも考えていたが、今回は可能な範囲内だったため、希望者全員にお願いした。

委員：募集定員だけでなく、申込者がいくつの講座に参加したのか、データがあるとよい。

委員：木曜日の午後に小学生向けの講座があったが、平日で学校があるため、この時間帯の参加はかなり難しい。開催にあたっては、対象者の活動可能な時期や時間を検討していただきたい。

事務局：夏休みに開催する等、今後検討していきたい。

委員：昨年・今年と2日間の開催であったが、3日間の開催にしていきたい。

事務局：開催形態や期間については、今後企画していくなかで検討していきたい。

委員：生涯学習センターまつりはどちらかというとな内向的な活動のイメージがあり、社会的視野にかけているように感じる。ボランティアバンクで良かった部分を、生涯学習センターまつりに活かしていけると良い。

(2) 町田の地域文化を掘り起こそう 伝統食乾物料理に挑戦！

事務局：郷土料理を作ったり、商店街を歩きながら町田を知っていただくことを目的とした講座で、応募者も多く、参加者からも高評価をいただいた。

(3) 春休み特別企画「ロバの音楽と音さがし♪」

事務局：春休み子ども向け講座ということで、生涯学習センターとしては初めてプロの楽団を招いての講座となった。各回1時間ずつ、0歳児～小学生低学年程度までの児童と保護者が参加した。募集定員は140名であったが、170名を超えて応募があった。実際の参加者数は、1回目が66名、2回目が64名で、非常に賑やかな講座となった。

(4) ひきこもる心を理解する ～地域で支えるために～

事務局：保健所が2012年度に実施した「ひきこもり」についての調査をした結果をもとに、保健対策課との共催として行った。1回目は公開講座として、91名の方に参加いただき、ひきこもり経験者のお話が聞けたこともあり、大変好評だった。2回目以降は30名が定員の連続学習会で、ひきこもりの子を持つ保護者が多かった。今年度も継続して実施していきたい。

(5) 時事問題講座「女性のチカラを考える ～歴史と現在～」

事務局：社会的弱者等の人権を考える講座で、参加者には非常に熱心に参加いただいた。

(6) 映画「ぼくはうみがみたくなりました」上映会と製作者講演会

事務局：4月2日の世界自閉症啓発デーにあわせ、自閉症についての映画を上映した。参加者は少なかつたものの、非常に完成された映画であり、参加者からは自閉症についてよく理解できたという声をいただいた。また、町田市民の作者の講演では、町田の状況についてもお話いただき、非常に身近に感じたという意見もあり、高評価をいただいた。今後は宣伝方法についても検討する必要があると考える。

(7) 市民企画講座「想いを伝える心の終活塾」

事務局：市民の方に講座を企画していただくもので、今回の「想いを伝える心の終活塾」は、高齢者がどのように最期を迎えるか、葬祭式場の方や裁判所の調停委員の方を講師に招いての講座となった。関心も高く、定員を超える応募があった。高齢社会に伴う問題についての講座は近年応募者が非常に多くなっている。

(8) 幼い子どもと暮らす親と子の交流ひろば「きしゃポッポ」・「パパと一緒にきしゃポッポ」(後期)

事務局：きしゃポッポは0歳児・1歳児とその親子が気軽に來ていただき、親子の遊びや保護者同士の交流、親子の学びの場として保育室を開放して行っている事業である。後期は9月から3月で、昨年度の受講者数は延べ436組、年間741組、1回あたり17組に参加いただいた。毎週火曜日に開催しているきしゃポッポは母親を対象に開催しており、父親向けに月1回日曜日にパパと一緒にきしゃポッポを開催している。父親を対象としたものは年間61組、1回あたり5、6組の参加で、参加者数は少ないが、母親向けについては非常に人気が高い。きしゃポッポをきっかけの場として利用していただき、仲間づくりや学びのきっかけに繋げるために、今後も継続して実施していきたいと考えている。

(9) 幼い子どもと暮らす親と子の交流ひろば「くるくるロケット」

事務局：0歳児・1歳児を対象にしたきしゃポッポに対し、2歳から未就学児の学びの場としてプレ企画で行ったものである。募集期間が短かったため、周知が行き届かなかったこともあり、参加者数は5組と1人あたりのコストも高くなってしまった。今後事業を行うにあたっては、周知方法と併せてコスト面でも課題が残った。また、保護者のニーズにあわせて事業を行ったが、参加者が少なく、ニーズに応えられていないという点も今後の課題である。

（意見・質問）

委員：くるくるロケットについて、アンケート調査を行うとあるが、どうなったのか。

事務局：アンケートの詳細については手元にデータがない。現在2歳児以上でなかなか活動する機会がないので、こういった機会を設けていただけるのはありがたいということで、参加者には満足していただけた。また、日曜日開催のパパと一緒にきしゃポッポについては、父親だけでなく、母親も参加したいという声を多くいただいており、くるくるロケットでは家族で参加できるという点でニーズがあるという声をいただいた。

委員：事業評価シートの評価項目で、事業の必要性等の項目があるが、当然必要だから事業を実施するのであって、この項目は不要ではないか。

事務局：評価シート書式の作成段階では生涯学習推進計画がまだ策定されていなかった。それまでは前年踏襲で行ってきた事業もあったため、それらの事業を見直すためにこのような項目を設けた。今後計画に基づいて事業を進めていくのであればこの項目は不要になると思われる。

委員：宣伝媒体は最も重要な課題ではないかと感じる。生涯学習センター自体のPRの方法も今後検討する必要がある。

事務局：広報については見る方が限定的な部分がある。また、新聞をとっていないと見ることができない。また、ホームページについても、閲覧者は若者も多いが、継続的な閲覧者は少ない。そのようななかで、いかに幅広くメディアを通して情報を提供していくか、さらに閲覧者に興味を持ってもらえるかが課題である。生涯学習センターを利用したことがない方に対して、どのようなニーズをもっているか、どのように生涯学習をしているかを把握した上で、その方々がどのような方法で情報を取得しているのかを、時間は必要だが検討しながら進めていきたいと考えている。

委員：生涯学習センターの認知度は10%程度である。生涯学習NAVIを3ヶ月に1度発行しているが、他の自治体では毎月タイムリーな情報を薄い冊子やチラシ等で市民に周知しているところもある。もっと小刻みに情報を発信してはどうか。

事務局：それについては今後検討させていただきたい。

委員：イベント等のPRを、ビルの外にボードを出す等、もう少し外へ向けて行ってはどうか。

事務局：ビルの内外や駅周辺にポスターを貼っているが、ご意見をいただきながら今後のPR方法について検討していきたい。

委員：市庁舎の中でのアピールが少し足りないように感じる。

委員：横浜市青葉区では市民活動センターと生涯学習センターが一体になった施設があり、市民も情報をアップできるポータルサイトを設置している。市の職員だけでなく、市民活動団体等も情報を発信できる環境が必要である。

委員：ある程度の期間を設け、生涯学習センターPRののぼりを商店街に飾っても良いと思う。

委員：職員だけでは追いつかない部分もあると思うのでPRのためのボランティアを募るのも良いと思う。

## 7 2013年度事業報告について

事務局：取り組んだ事業として、まず1つめに生涯学習推進計画を策定した。2つめに、情報収集・提供等について、年6回生涯学習NAVIを発行した。3つめに、家庭教育支援事業として、国・都の補助金を活用してきしゃポッポなどの事業を実施した。4つめに、さがまちコンソーシアムや他機関との連携を図りながら、さがまちカレッジを含め18事業を実施した。反面、生涯学習センターの知名度はまだ低く、利用者が限られていることや、ホームページ等での情報発信が十分でないことは課題である。2014年度以降についても、これらの課題に対応しながら、生涯学習センターが機能を果たせるように、事業に取り組んでいきたい。

## <報告事項>

### 1. センター長報告

#### (1) 教育委員会

3月31日に臨時会が開催された。町田市生涯学習センター運営協議会委員の選任について、審議の上、可決された。また、4月11日に第1回定例会が開催された。報告事項として、2014年度ことぶき大学前期受講生募集プログラムについて、及び2013年度生涯学習センター事業報告を行った。

#### (2) 東京都公民館連絡協議会

4月16日に総会が開催された。西原委員、柳沼委員、事務局からはセンター長、松田係長が出席した。

#### (3) その他

##### ・町田センタービル工事について

生涯学習センターが入っている町田センタービルの防水工事・塗装工事が4月から始まっている。

### 2 障がい者青年学級開級式について

事務局：別紙のとおり開催するのでぜひご出席いただきたい。

### 3 東京都公民館連絡協議会の活動について

委員：平成26年度東京都公民館連絡協議会定期総会が4月16日小平市中央公民館で開催された。毎年冬に研究大会を開催しているが、今年度は、2015年度関東ブロック公民館研究大会の準備のため、開催されないこととなった。4月30日に第1回委員部会が開催される。

### 4 その他

事務局：4月26日に第1回生涯学習センター利用者交流会を行う。全体会と分科会に分かれて行うもので、ホームページにも掲載している。委員の皆様にも是非ご参加いただきたい。